

## 「授業における目標設定と達成度評価」が開催されました

### 実施報告

**日時:** 2010年5月24日(月) 17:00～18:40

**場所:** 東海大学湘南キャンパス 8号館3階 プロジェクト会議室

**司会:** 尾崎 由佳(チャレンジセンター専任講師)

- 内容:**
1. 初年次教育としての「プロジェクト入門」とその評価について  
(岡田 工 チャレンジセンター准教授)
  2. 社会的実践力教育におけるルーブリックの使用について  
～チャレンジセンター科目「集い力」における試み～  
(園田由紀子 チャレンジセンター専任講師)
  3. 質疑応答



### 1. 初年次教育としての「プロジェクト入門」とその評価について

岡田 工(チャレンジセンター准教授)

2010年度より「プロジェクト入門」等で試行予定の「自ら学ぶ意欲を引き出す理系教育プログラム」の内容が紹介された。本プログラムは、初年次の学生を主な対象として、身近なモノ(科学技術の成果)を題材にプロジェクト形式で共同研究する作業を通じて基礎の重要性を理解させ、学びの意欲を引き出す取り組みである。

「プロジェクト入門」の授業目標は、課題(ミニ・プロジェクト)を企画・運営する体験を通じて、「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」を総合的・応用的に高めることである。さらに、自ら学ぶための汎用的能力(ジェネリック・スキル)として、「調べる力」「発表する力」「コミュニケーションの仕方」「報告書を作る力」なども授業内容に取り入れ、ある程度パッケージ化された形で様々な学部学科に提供できるよう開発を進めている。

教育の質を保証するための評価指標としては、「スキル」「学ぶ意欲」「成果物」の3つの面から評価する。①スキルについてはルーブリックを利用して評価し、②学ぶ意欲については、学修計画表に基づいた履修ができていないかを追跡調査するとともに、面談やGPA評価を行う。③成果物については、シラバスに記載してあるレポートや報告書等にもとづいて評価する。特に、ルーブリックを利用したスキル評価については、チャレンジセンターが積極的に開発と検証を進めていくことが重要だと考えられる。



## 2. 社会的実践力教育におけるルーブリックの使用について ～チャレンジセンター科目「集い力」における試み～

園田由紀子(チャレンジセンター講師)

ルーブリックとは、学習到達状況を評価するための評価基準表のことである。ルーブリックには、学習の各要素に関してS, A, B, Cといった段階的な評価基準が含まれている。学習前に学生に提示することによって、「授業においてこのようなことを学び、この程度まで到達してほしい」という指針を伝えることができる。また、学生自身に学習目標を立てさせることや、目標に到達するまでのステップを理解させるためにも役立つ。さらに、このような目標設定を行わせることを通じて、学生の学習意欲を高めることにも効果があると言われている。

なお、ルーブリックの実践例として「集い力(入門)」における取り組みが紹介された。特徴としては、1)シラバスにルーブリックを提示すること、2)5項目5段階で設定していること、3)ガイダンス時にルーブリック上で事前自己評価を行わせること、4)終了時にルーブリック上で事後自己評価を行わせることの4点である。また、自己評価をする際に、「なぜそのような評価をつけたのか」という理由についても記述させることによって、教員がその内容を見て評価の妥当性を判断できるようにしている。

このような取り組みの成果として、学生が具体的な学習目標を持てるようになったこと、現状の能力不足に気づき努力や学習の必要性を認識すること、能力を高める・成長するという意識が生まれたことが挙げられる。ただし、今後の課題としては、学生がルーブリックの内容を十分に理解できないまま評価をしているケースや、評価理由について具体的な説明ができないといった点が挙げられ、ルーブリック上での自己評価をそのまま成績評価に反映することには問題がある。



## 3. 質疑応答

- Q** 理系教育プログラムの学修計画表の作成・追跡はどのように行うか？
- A** 学生の所属学科の指導教員に協力を求めるとともに、学生支援システムの活用も検討している。しかし、学生支援システムは、一人ひとりチェックしていく必要があり、かなり手間がかかる。今後、キーワード検索機能などが加われば、より使用しやすくなるのではないか。
- Q** 学修計画表は、必ずしもそのとおりに履修しなくても、むしろ途中で方向転換することによって改善される場合もあるのでは？
- A** 学習計画表作成後に学生の履修希望が変更することも当然ありうる。その場合は、適宜修正しても構わない。質の保証としては、GPAや学科順位を追跡調査すれば、学生の成長の様子が把握できるだろう。

- Q 「応用から基礎へ」という構想だが、科目内容によっては必ずしも応用から始める必要はなく、基礎と応用を並行させたり、むしろ基礎からスタートするほうが好ましい場合もあるのではないか。基礎や応用といった認識の仕方が、分野によって異なっていることもあるのでは。
- A 理系、特に工学部では基礎から応用に段階的に進めていくのが基本的プロセスだが、専門分野ごとに何が基礎で何が応用にあたるかの認識が異なっている。各専門分野の事情に応じた授業のパッケージ化を考えていく必要がある。
- Q 社会的実践力教育におけるルーブリックの具体的な達成基準と達成目標は何なのか？また、紹介されたルーブリックでは、レベル2であってもかなり高いスキルが含まれているが、これを使って学生のレベルをきちんと測定できるのか？
- A 授業で教える概念を使ってルーブリックをつくと、授業を受ける前の学生には理解できない単語が入ってしまうことは否めない。しかし、誰にでも理解できる言葉を使ってルーブリックを作成すると、説明がかなり冗長になってしまう。ルーブリックを実際に運用する段になると、どのようにワーディングするか、レベルの設定をどうするかといった点において、かなり難しい問題がある。これらの点については、今後検討を重ねていく必要があると思う。
- Q ルーブリックに照らし合わせて自己評価をするのは難しいのでは。わかりやすい言葉で、妥当な評価ができるようなアンケートにしてはどうか。また、「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の重要性を理解していることを評価する項目があってもよいと思う。
- A 授業内容を正確に表そうとしているため、やや難しい表現になっているかもしれない。授業を通じて理解していくことが大切だと考えている。重要性の理解度を評価することは確かに有用であり、定期試験などでそのような設問を含めることもある。